

一人一人が生き生きと活動する
明るく楽しい学校



か い ど り



学校だより令和2年度 第5号

令和2年8月6日

<http://schit.net/tama/eskaidori>

多摩市立貝取小学校
校長 小川 貴史

真実の愛を注ぐ

校長 小川 貴史

6月の学校再開から2か月が過ぎ、いよいよ夏休みの直前となりました。この間、保護者の皆様方にはお子様の新型コロナウイルス感染予防の対応や健康管理など様々な面でお力添えをいただき、ありがとうございます。子供たちも新しい生活様式の中で、感染予防に努め頑張ってきました。夏休み期間も引き続き、各ご家庭で新型コロナウイルス感染予防の対応を行っていただき、短いながらも充実した2週間をお過ごしください。

ところで、最近コロナ禍の影響もあり、テレビや新聞等で子供に関する事件、虐待やいじめに関するニュースが報道されています。目の前の子供が幸せにすごしているか、将来どのような人に育つか等、みんなで考えながら子育てを進めていかなければならない時代ではないでしょうか。

子育てでは、自己肯定感・自己有用感を高めることが大切です。そのためには子供に愛情いっぱいに接することです。このうえもなく大切なものとして、あふれるような愛を子供に注ぐことです。親や家族をはじめ、地域の皆様・学校の教職員が子供に向けて、しっかり真実の愛を注ぐことです。

「そんなの、言われなくても愛を注いでいるよ」という声が聞こえてくるようですが、その愛が子供の心に届いているのでしょうか。子供の将来を見すえた愛になっているのでしょうか。

子供の喜ぶ顔が見られるからといって、次から次へとおもちゃを与えることが愛と考えていらっしゃる場合、その子供は与えられることが当たり前になってしまいます。時には、おもちゃを与えない厳しさも必要です。

愛するということは、心でしっかりとつながることです。うれしいことがあれば共感してもらえると心が成長します。さまざまな困難に出会ったときにそっと手を出してもらえると、自分の背中をしっかりと支えてくれる大きな手を感じたとき、子供は健やかに成長していきます。

子供は、受け入れられていると感じとれると安心感いっぱいになれます。愛されていると受けとめられるから頑張れます。人を信じられるということができるだけ子供の頃に体得すること、それらのことで、子供の自己肯定感・自己有用感がいっぱい高まっていきます。自分が好きになり、自分のよさに気づき、身の回りの人のために尽くそうという気持ちになっていくのです。

その子は、将来自分の子を持ったときに、愛する子育てをするのです。

